
とあるＢＢプレイヤー達の休日

トッシー 〇 〇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とあるBBプレイヤー達の休日

【Nコード】

N7438Q

【作者名】

トッシー00

【あらすじ】

ブレイブルーしたらば掲示板のとある漫画スレを題材とした小説。面白かったんで小説にしました。

（前書き）

ハーデス先生に続いてしたらばネタです。
スレ見かけたら書き込みしてあげてください。
ちなみに漫画描いてる人は私とは別人です。

とあるゲームセンター。

ごく普通のしがないゲーセンだ。音ゲーもそれなりに置いてあつて、UFOキャッチャーの景品もそれなりに充実してある。

そんなしがないゲーセンにも、ブレイブルーのCS2が2台おいてある。

鉄拳とエクストリームVSという人気のゲームの近くにポツンとおいてある。やる人もそこそこいる。

私の名前は小倉公子おくらきみこ、通称”グラハム”

普段着のセンスがちよっぴり壊滅的だが、それ以外はごく普通の高校生だ。

どんくらい壊滅的かというと、背中がパツクリ空いたエプロンみたいな服を着てゲーセンに行くほど壊滅的だ。

しかも女性らしいことはせず、学校が終わると格闘ゲームをやりに行く、あれ？ひょっとしたら私って普通の高校生で shouldn't じゃね？

そんな変わり者の私は、休日の昼からゲーセンでブレイブルーをやっている。

「にしても相手のハクメン、当て身厨だなあ……投げが思いのほか通る……」

ブレイブルーをやり始めて10分くらいで最初に乱入してきたのはハクメンだった。

ちなみにグラハムことわたし小倉公子は、今作から大幅強化を受けたツバキを愛用している。

別に今作から強くなったからツバキに鞍替えをしたのではない、きちんとCSから使っていたぞ。

とまあかれこれ私は5連勝ほどしている（しかもほとんどストレート勝ち）。相手は他の人がいないことをいいことに連コしまくっている。

「いったいどんな奴がプレイしているんだ？」

2ラウンドほど取って余裕が出てきたので、ちらつと対戦相手を覗いてみることに。

もしかして始めたばかりの初心者か、それともたいしてうまくもないでムキにやってる感じの人か……

そのハクメン使いが、嫌な奴でなければ良いのだが……

「ズエ？」

本人降臨してー！！！！！！

キャー――――シャベッタ――！！！！

思わず私は某ハンバーガーのCMの子供のような反応をしてしまった。

なんでハクメンがハクメン使ってた！？つかあんた何を堂々と現世で格ゲーやってんだよ！！

「心配するな、私は良いハクメンだ。」

いや聞いてねえよ!!

つか良いハクメンってなんだよ!?!なに昔のポケモンカードのような言い方してんのこの人!!

「まあカタイことは言わずに、我とタッグを組まないか?」

「ええ……………」

ハクメンの申し出に、思わず私はどうにも言えない表情になった。あんたはゲームやつてる暇とかないだろ?テルミ倒すんだろ?核とか許せないとか言ってただろ?

「共にP S R 3 0 0を目指していいこうではないか」

「は…………はあ……………」

ハクメンはそう言って、まだO Kも出していない私を強引に仲間にした。

なんかめんどくさそうな奴に絡まれてしまったなあ…………

しかもP S R 3 0 0を目指すってお前、3 0 0どころかまだP S R 2じゃねえか、いつになったら3 0 0になるんだよ。

私はP S R 1 3 0だ。ちなみにP S Rとは、勝率のようなものだと思ってくれればいい。

「話は聞かせてもらった。」

誰！？

リアルハクメンさんと会ってまだ間もないのに、今度は変なおじさんが現れた。

ちなみにハクメンときたら次は……と思ったみなさんには申し訳がないのだがヴァルケンハインではない。

「申し遅れた。私の名前はMr・ブロント」

おいおいまさかのブロントさんかよ！お前関わるゲームが違っじゃねえかよ！！

確かにブレイブルーのココノエがしょっちゅうあんたのネタを使ってますけどね！！

「面白そうじゃない！私も参加させてもらっわ。」

今度は誰！？

見たところ女の人だ。まったく次から次へと……

しかも意外とスタイルもいいし、高そうなアクセサリ付けてる所が何かと腹が立つ。

そう言う人はゲームセンターじゃなくてもっと危ない遊びをしに行けばいいと思います！！

「ちなみに私の名前は三千院ムギ、よろしくね」

どっかで聞いたことあるぞその名前!!

1文字しか違うし!なんか執事つれてそうな感じだし!!

「忙しいのね、ゆっくりとお茶にしたいのだわ」

ここに来てレイチエルが現れたよ!

何さこの二次元と三次元の栄え目みたいな交流会は!!

ちなみに名前を聞くとレイチエルっぽい人は麗茅恵流と名乗った。
ぶっちゃけどうでもいいよ!!

- - - - -
- - - - -
- - - - -
- - - - -

とまあなんやかんやでいつぺんに現れた変な人たちは、全員でPSRを300まで上げよう作戦を決行するのだった(しかもなぜか私まで)。

どうしたらPSR300まで上げられるのか、そんな他愛もないことを話し合っていた。

ネシカで自演、とか悲しい提案をするのは麗茅恵流だった。なんでも彼女は掲示板でもKYとして知られているだけで、じゃあしゃべるんじゃないよ。

とまあ3分ほど話し合った末、ハクメンのこんな提案が通った。

「とりあえず最初は学校帰りの中学生辺りに乱入を仕掛けてみよう。」

英雄のくせにずいぶんとせこい提案出したなあ……

まあ私も早くこんな人たちと早く別れたかったし、早く終わるのなら終わってくれ……

そして数分後、土曜日の午後から学校帰りの中学生がゲーセンに入ってきた。

そしてBBCS2をやり始めた。選んだキャラはラグナ・ザ・ブラッドエッジ、このゲームの登竜門とも言うべきキャラだ。様子を見る限り、それほどうまくはなさそうだ。

「では、まずはリーダーの私が先陣を切ろう。皆も続け」

いつリーダーになったのかは知らないが、ハクメンは迷いなく逆側の筐体に座り、100円を投入。そして数分間、勝負をした結果……

「強かった……1ラウンドも取れなかったズエア」
「おい……!」

私も思わず突っ込んだ。

お前さっきまでの口ぶりじゃあ中学生相手になら勝てるって感じだったよな？

思えばこいつPSR2だったな、期待した私がばかだったわ!!

「そうだ、言い忘れていたことが一つだけあったのだわ」

ここで麗茅恵流、漢字が難しいからレイチエルでいいや。
そんな彼女が、真顔でこう一言を言い放った。

「私、実は鉄拳勢なのよ」

「知らんがな!!」

じゃあなんでお前たちに絡んできやがった!?
ここで言うことじゃないよねそれ?だからお前は掲示板でも友達いないんだよ!!

「ちなみに私は任天堂派よ」

「だから知らねえよ!!」

おいムギ!今は格闘ゲームの話をしてるのであってゲームのハードの話をしてるんじゃないぞ!!

「3DSは余裕で予約できたわ」、いやだから知らねえし!!
ちなみに私は買うお金すらないわ!貧乏学生ですから!!

「きたない、流石金持ちきたない!!」

ここであつてくるんじゃないやねえよフロント！！話がややこしくなるだらうが！！

「まあなんだ、結局は……格闘ゲームはみんな仲良くやりましょうってことだな。もう台バンをしてはだめだぞ」

何を綺麗に閉めてるんだよハクメン！！カッコ良くもなるともねえよ！！

そんなこんなで、PSR300を目指すため、私たちは夜の11時くらいまでゲーセンにいた。

私の家の門限9時なんだけどな……

「ほんと……落ちぶれてすまん」

ちなみにそれ、私の口癖である。

やっぱり私って普通の高校生ですらない気がする。そう思っていた時期が私にもありました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7438q/>

とあるBBプレイヤー達の休日

2011年10月5日05時59分発行